

ならエコファーマー通信

奈良県

第15号

新しい取組、ならエコファーマーフェアを開催!



平成27年10月17日(土)、宇陀市のわくわく宇陀いちの駐車場で、“ならエコファーマーフェア”を開催しました。

昨年までは、奈良まほろば市など他のイベントに出展してPRを行ってきましたが、今年は独自でフェアを開催!

県内各地のエコファーマーが一同に会して、環境に優しい農業の取組PRや、消費者との交流を行いました。

当日は昼頃にやや雨がぱらつきましたが、おおむね曇りの天気にも恵まれ、県農業水産振興課職員とともに、7名のエコファーマーが参加してのイベントとなりました。詳細は次ページをご覧ください。

次年度も開催予定です。県民の皆様にも愛されるイベントとしての定着を目指していきますので、今年参加できなかった方も、来年度はぜひご参加ください。一緒に盛り上げて行きましょう♪

ならエコファーマーフェア



農産物の販売



食育コーナー



クイズ・アンケート

ならエコファーマーフェアでは、エコファーマー認定を受けた農産物の販売会の他、食育コーナー、クイズコーナーなどをもうけました。

農産物販売会では、普段、宇陀市の直売所ではあまり売られていない大和丸なすや県南部地域の柿・ブドウの販売などがあり、生産者の安全・安心への取組の話題で盛り上がるなど、にぎわいました。

食育コーナーは子供さんに大人気♪箱の中の農産物を手探りで当てる”はてなBOX”や、トマトやなすなど野菜の花と実を合わせる“絵合わせクイズ”に挑戦いただきました。

クイズコーナーでは3択問題を出し、エコファーマーの取組について、楽しく消費者の方に知っていただきました。

当日の様子は県政フラッシュで放送された他、後日、開催報告をJR奈良駅等でパネル掲示しました。県政フラッシュでの過去放送は、奈良県HP (<http://www.pref.nara.jp/dd.aspx?menuid=17258>) からご覧いただけます。10月14日の放送をご覧下さい。

奈良県の環境に優しい農業シンボルマーク 農産物フェアも開催しました！

11月14日（土）、奈良県の環境にやさしい農業シンボルマーク農産物の販売会を奈良市の旬の駅ならやまで行いました。エコファーマー 人、有機農業者 人が集まり、環境に優しい農業の取組やシンボルマークをPRしました。

環境に優しい農業シンボルマークは、エコファーマーもしくは有機JAS認定事業者、提供店を対象に県が審査・認定を行い、マークの使用認定を受けた作物のみ貼ることができます。

興味のある方は、農業水産振興課環境係までお問い合わせください。





奈良県エコファーマー連絡会第9回通常総会を開催



平成27年10月2日(金)、橿原総合庁舎にて会員24名の参加を得、奈良県エコファーマー連絡会第9回通常総会を開催しました。

平成26年度の事業報告後、平成27年度事業計画の協議を行い、下記の事業が承認されました。

役員改選では新たに(有)類農園の小松氏、(有)山口農園の石本氏が役員に就任されました。

平成27年度事業計画と新役員

(平成27年10月～平成28年9月)

■総会・役員会の開催

■環境保全型農業技術の研修、情報提供

- (1) 環境保全型農業技術研修会の開催 (10/2、2月)
- (2) エコファーマー技術交流会の開催 (2月)
- (3) ならエコファーマー通信の発行 (1回)

■エコファーマーの取組、農産物のPR

- (1) エコファーマー活動PRパネルの作成と貸出
- (2) エコファーマーフェアの開催によるPR (10/17)

■新役員

新監事	(有)類農園	小松	由布樹
新幹事	(有)山口農園	石本	淳史

総会終了後、環境保全型農業推進講演会を開催し、41名が出席しました。立命館大学生命科学部生物工学科の久保幹教から、「土壌肥沃度指標(SOFIX)による物質循環型農業ー環境保全型農業での土壌診断とその活かし方、収量アップへの道ー」と題して、土作りで目標とすべき土壌微生物の基準、微生物環境を整えるための土作り手法、現場での取組事例について講演いただきました。

続いて奈良県中部農林振興事務所の小林主査より、「多集落営農組合における県内産堆肥を活用したイネWCSの取組」について、イネWCS収穫後、たい肥を散布し小麦を作付けする耕畜連携の事例を発表いただきました。

当日欠席された方で、総会・講演会資料を希望される場合は事務局までご連絡下さい。

また、久保教授が開発されたSOFIX分析を希望される場合は、「SOFIX農業推進機構」へお問い合わせ下さい(HP:「SOFIX農業推進機構」で検索。電話番号:077-599-4310、メール:info@sofixagri.com)。



奈良県エコファーマー連絡会第9回総会



環境保全型農業推進講演会
講師 中部農林 小林主査



環境保全型農業推進講演会
講師:立命館大学 久保幹 教授

エコファーマー技術交流会(先進地視察研修)報告

平成27年3月3日、16名が参加し、JA堺市大阪エコ農産物出荷部会、類農園直売所彩都店で研修をしました。

JA堺市大阪エコ農産物出荷部会は大阪エコ農産物の認定を受けて、生協や中堅マーケットを対象に軟弱野菜等の出荷をされています。生産計画はJAがHPで公表し、直売所にエコ農産物コーナーを設けるなど取組まれていました。

類農園直売所彩都店では、販売農産物の4割ほどを奈良産が占め、県内に4カ所の集荷場を設けています。”新鮮で良い物”をコンセプトに、各農家のこだわりを情報発信するよう努めておられました。

JA堺市大阪
エコ農産物
出荷部会



類農園直売所
彩都店

エコファーマーの有機物等施用技術

県内の畜産たい肥の使い方

エコファーマーの基本である土作り技術。今回は、県内の畜産たい肥の使い方をご紹介します。畜種ごとのたい肥の性質を生かして、目的に沿った土作りをしましょう。

畜種別たい肥の特徴

- 牛ふんたい肥：物理性改善効果が高いものが多いです。一方、窒素含有率が1%前後と低く分解が遅いことから肥料効果はあまりありません。
- 豚ふんたい肥：窒素成分を比較的多く含み分解も比較的速いので、肥効がやや期待できます。
- 鶏ふんたい肥：肥料成分が高く、分解も速いので肥料効果が高いです。リン酸が多いのが特徴で、採卵鶏のものは石灰も高くなります。物理性の改善効果はあまり大きくありません。

注意：鶏ふんたい肥などC/N比が10前後以下のものは肥料効果が高い一方、急に分解して発熱や有害ガスの発生を伴う事があるので、大量施用・直前施用を控え、作付の1ヶ月程度前に混和するようにしましょう。

表1 奈良県内の畜種別たい肥の成分含有量のめやす

資材名	pH	EC(ds/m)	C/N比	窒素(%)	りん酸(%)	加里(%)
牛ふんたい肥	8.2	6.6	23	1.2	0.6	0.7
豚ふんたい肥	8.0	7.7	19	1.5	1.5	1.2
鶏ふんたい肥	8.3	9.8	10	2.1	2.3	2.2

注：各6~7点の平均。ばらつきが大きいので、使用するたい肥の成分表示を確認すること。

表2 年間たい肥施用量の目安

	畑地	水田
土壤腐植含有量 ≥ 3%	2t/10a	500kg/10a
土壤腐植含有量 < 3%	3t/10a	750kg/10a

表3 家畜排せつ物たい肥由来肥料成分の肥効率(%)

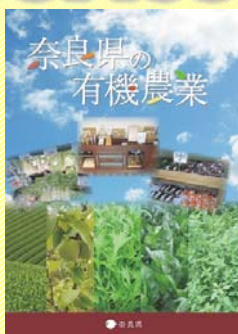
	窒素	リン酸	加里
牛ふんたい肥	15	80	90
豚ふんたい肥	30	80	90
鶏ふんたい肥	60	80	90

※ 単年度での肥効率(連年施用した場合、肥効率はさらに高まる)。
 ※ 排水良好な土壌を対象。粘質な土壌では3割程度減量する。

連用した場合、肥料成分が集積して環境負荷になる場合があります。適正な養分バランス、施肥の効率化のためにも、表3を参考に、たい肥中の肥料成分を勘案して減肥しましょう。

$$\underline{\underline{\text{たい肥由来有効肥料成分量} = \text{たい肥施用量}(\text{kg}/10\text{a}) \times \text{含有成分量}(\%) \times \text{肥効率}(\%) / 10,000}}$$

TOPICS



「奈良県の有機農業」パンフレットを作成しました。

有機農業による農産物等の生産・販売を拡大し、環境にやさしく安全・安心で高付加価値のあるものとして県産有機野菜等の消費拡大を目指すため、消費者向けに奈良県の有機農業パンフレットを作成しました。

配布を希望される場合は、農業水産振興課環境係までご連絡ください。